



西中だより

教育目標

豊かな人間性を培う
創造 自律 敬愛 健康

令和7年9月30日発行
第6号

「頑張った分だけ」

余市町立西中学校長 豊田 一正

厳しい暑さもようやく終わりが近づき、朝夕は肌寒く感じるようになりました。寒暖差が大きくなる時期ですので、体調を崩さぬようお気をつけください。

さて、学校では10月4日(土)に『西中祭』が行われます。今年の学校祭テーマは「戮力協心～笑顔輝け！今こそ見せろ！西中の情熱！」です。「戮力協心(りくりよくきょうしん)」とは「互いに心を一つにして協力し合う」という意味で、全校生徒一人ひとりが持っている力を合わせ、笑顔で楽しく、思い出に残る西中祭にしたいという思いが込められています。今年も縦割りの三部会に分かれて準備を進めています。先週から特別日課が始まり、午後からは各学級の合唱練習を行っています。練習の様子を見ていると、もう二十年以上も前になりますが、担任だった頃の西中祭を思い出します。

私が居た当時の西中祭は2日日程で、プラカード(体育館に飾ってある絵)と合唱がコンクール形式で行われ、その他は学年発表やリサイクルバザー、生徒会企画、有志発表などがあったと思います。中でも合唱コンクールは生徒の気合いや緊張感が最も高まるものでした。特別日課中は、今と同じように合唱練習の時間が割り当てられていました。また、音楽の時間には各学級の完成度が点数で黒板に書かれ、生徒は一喜一憂していました。私は歌唱指導はほぼできなかったもので、男子のモチベーションをいかに上げるかが勝負でした。女子は何も言わなくても、しっかり歌っていましたが、男子のテンションは低く、何度も同じことを繰り返し言ったり、注意していたので学級の雰囲気は盛り上がりず難しさを感じていました。

しかし、最後に3年間受け持った学級は違いました。スタートはやや遅れましたが、合唱委員やパートリーダーが中心になり友だち同士でもお互いに注意し合うなど担任が口を挟むことは余り無かったように思います。また、ダメなことですが、休みの日も学校に集まり練習することもありました。有志での練習ということでしたが、結構な人数が集まっていたように思います。なぜ、そんなに気合いが入っていたのだと思いますか。それは、当時はA組、B組と各学年2クラスでしたが、我がA組は同じ学年のB組に3年間一度も勝ったことがなかったからでした。「絶対に勝ちたい」という思いが学級の原動力になっていたのです。

結果は、初めてB組に勝ち「金賞グランプリ」をゲットしました。(グランプリは複数学級あり、その中の一番がグランプリでした)動機はどうあれ、頑張ってきたことを形にすることができました。この巻頭言を書いている中、当時の学級通信のデータが残っていたので、生徒の作文を読み返してみると、読んでいて嬉しくなる内容ばかりで、生徒の「最高に楽しかった」「嬉しかった」という熱い気持ち伝わってきました。

今は生徒数も減り、各学年1クラスなので、競い合う雰囲気は感じられませんが、「頑張った分だけ、思い出は深まる」ということは変わらないと思います。西中祭に向けて取り組んでいる時は、楽しいことばかりで無く、上手くいかないこともあります。しかし、学級の仲間や先輩、後輩と共に活動することや自分なりに頑張ってみることで多くのことを学ぶことができると思います。また、仲間の「良さ」も感じることもできる貴重な機会です。西中祭まであと数日、持てる力を発揮し、西中の情熱を見せてくれることを期待しています。

保護者、地域の皆様にはご多用のことと思いますが、ご来校いただき生徒の頑張りに対する温かい言葉かけや拍手をお願いいたします。多くの方に見ていただくことが、生徒の自信にもつながることと思いますので、お誘い合わせの上ご来校くださいますようお願い申し上げます。

